

黒岳に見られる特異な自然現象



奥芹の風穴

天然冷蔵庫として利用されていたそうです。風穴の入口は一辺 70cm ほどの正方形で、1.7m ほどの深さの竪穴になっており、これを下りると踊り場があって、さらに 2m ほど下りると T 字形の広間があります。

こうした洞内のしくみが、外界と比べて夏は寒さを感じ、冬は暖かさを感じさせる現象をもたらしているのです。

天然低温洞窟「風穴」

黒岳周辺には、大きな火山岩塊の隙間に偶然できた冷たい空気の留まった「風穴」が数多くみられます。中でも代表的な「奥芹風穴」は男池から 2 時間弱、黒岳と大船山の間の鞍部にあります。広い洞窟の中はとても寒く、7 月頃まで氷が残っています。この風穴は大正年間に蚕種を保存するための



前岳地獄谷の岩塊の隙間



男池湧水（庄内町）

男池から 30 分ほど登ると「かくし水」の湧水があります。黒岳周辺の高地の湧水はここだけで、流水はやがて地下にしみこんでしまうので、「かくし水」と呼ばれています。夏でも 8℃ という冷たい清水と涼しい木陰は、登山者にとって嬉しい憩いの場です。これらの湧水を源流とする阿蘇野川の冷水域にはアマゴやヤマメも生息し、溪流釣りも盛んです。

男池湧水群と「かくし水」湧水

男池湧水群は、黒岳北麓の自然林内に湧く名水で、環境庁の「名水百選」にも選定されています。清らかでまろやかな口あたりには定評があり、この水を求めて多くの人が訪れます。年中 12.6℃ の水温を保ち、1 日約 2 万トンという豊かな湧出量を誇っています。



アマゴ（阿蘇野川）